

第 48 回日本集中治療医学会学術集会

2021 年 2 月 12 日～2 月 14 日 WEB 開催

■教育講演

『集中治療医が知っておくべきストラクチャーハートインターベンションの基礎知識』

司会：澤村 匡史（済生会熊本病院 集中治療室）

司会：白壁 章宏（日本医科大学千葉北総病院 集中治療室）

演者 1：

『集中治療医が知っておくべきSHDへの最新治療手技』

林田 健太郎（慶応義塾大学医学部 循環器内科）

弁膜症などに対するカテーテル治療は急速に進化している。まず大動脈弁狭窄症に対する TAVI は 2002 年の first in man 依頼全世界で普及しており、近年の RCT ではついに開胸手術より良好な短期成績が認められ、開胸手術と同等な確立された標準治療として各国のガイドラインが改訂されている。また僧帽弁閉鎖不全症に対する MitraClip も心不全入院予防効果に加え、予後の改善データも出てきており急速に発展している。さらに心房細動に対し抗凝固薬内服を不要とする経カテーテル左心耳閉鎖も 2019 年より本邦で保険償還されている。本公演ではこれらの新しい治療について概説する。

演者 2 :

『集中治療医が知っておくべきSHDI 周術期の心エコー図評価法』

新沼 廣幸 (聖路加国際病院 循環器内科)

循環器疾患の治療において、僧帽弁狭窄症に対する PTMC に始まったカテーテル治療は大動脈弁狭窄症に対する TAVR のデバイスと治療手技の進歩とともに開心術と同等の成績を呈し、世界中で臨床使用されている。

開心術では周術期に経食道心エコーにより手術直前の心内構造や弁膜症の詳細な評価や術直後の手術成功の可否を評価するなど重要な評価法となっている。一方、SHD intervention の際には経食道心エコーは術中のリアルタイムモニタリングを行い得るため、安全な治療のために必須となっている。

本講演では TAVR と本邦で臨床使用されている心房中隔欠損症閉鎖術、僧帽弁閉鎖不全症に対する MitraClip および左心耳閉鎖術の際の心エコー図評価法について基本的知識と注意すべき点について概説する。